

日本教育学会中部地区研究会のご案内

日本教育学会中部地区研究会実行委員会

植田健男・子安潤・坪井由実

中嶋哲彦・松下良平

新年度が始まり、新たな気分で花の春をお迎えのことと存じます。

今年も中部地区では研究交流集会（シンポジウム）を企画いたしました。下記の要領をご覧の上、特に中部地区在住の会員の方々は奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

《テーマ》

学校改革の理念と現実のギャップを問う

——実態・背景・課題——

《趣旨》

1990年代に始まり、近年ますます進行しつつある一連の教育改革においては、アクティブな（主体的・能動的な）能力や態度の形成がめざされている。生きる力・社会を生き抜く力、創造性・チャレンジ精神・リーダーシップ、主体的な学び・自ら学ぶ力、共助・互助・自助、主体的な社会参画・市民参加、問題解決・課題解決、等々である。第2期教育振興基本計画においても、今後の社会の方向性として「自立・協働・創造」がキーワードになっている。

ところが、現実の教育現場では、目標とする教育成果を所定の期間内に確実に達成し、失敗や遅滞のリスクをマネジメントするために、さまざまな統制・管理システムが導入され、標準化や画一化が志向されている。たとえば、創造的な知性や批判的な道徳が必要になっているときに、学力テストへの対応や規範遵守の教育ばかりが強化されようとしている。あるいは、教師と子どもの双方ともに、あらかじめ設定された手順や定型化・マニュアル化されたやり方に従って教え、学ぶ傾向が強まっている。このような教育を受けた子どもたちは、主体的な学びや「自立・協働・創造」からむしろ遠ざかっていくであろう。

ここに見られる教育の理念と現実のギャップをどのように理解すればよいのだろうか。総論のレベルでは整合的だが、各論になると矛盾が生じるということだろうか。国の政策の真意を地方教育行政や学校側が十分に理解していないということだろうか。それとも理念自体が政治的妥協の産物であり、最初から矛盾を抱えているのだろうか。あるいは、理念の実現を阻もうとする力や要因がどこかに隠れているのだろうか。そもそも理念と現実のギャップは、どのような範囲にどのような形で広がっているのか。理念と現実が結びついた教育実践はどこにどのような形で見いだせるのか。さらに、この理念と現実のギャップにどのように対応すればよいのだろうか。もっといえば、どのようにすればこのギャップは乗り越えられるのか。

このような問題に、公立小学校、私立高校、県教育委員会等のさまざまな教育現場の実態報告に耳を傾けながらアプローチし、参加者同士が討議するなかで今後追究すべき教育学的課題を提出してみたい。

プログラム

日時：2014年5月18日（日）午後1時30分～4時30分

場所：ウインクあいち15階 愛知県立大学サテライトキャンパス

（名古屋駅より徒歩3分 <http://www.winc-aichi.jp> 旧愛知県中小企業センター）

趣旨説明：松下良平（金沢大学）

学校改革の理念と現実の間に何があるのか

報告1：寺岸和光（石川県白山市立松南小学校教頭）

公立小学校における教師や子どもの現状と課題

報告2：鈴木孝明（静岡県総合教育センター総合支援課指導主事）

教育行政による学校運営支援の意義と課題

報告3：佐藤廣和（愛西学園・愛知黎明教育研究所所長・三重大学名誉教授）

愛知黎明の人間教育への挑戦

コメンテーター：子安潤（愛知教育大学）・坪井由実（愛知県立大学）

司会：植田健男（名古屋大学）

*当日の発表・議論を踏まえた報告集を夏までに作成する予定です。フロアとして参加された会員の方々からの寄稿も当日以降受け付けますので、コメントや論稿をお寄せくだされば幸いです。

◆連絡先（2013-14年度実行委員会事務局）

松下良平

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学人間社会学域学校教育学類

Tel 076(264)5530

E-mail matsuryo@ed.kanazawa-u.ac.jp